

J R東日本が車両の検査修繕職場の合理化を提案

安全は誰のため

メンテナンスの外注化は技術継承の放棄？

車両の検査・修繕をする電車区や車両センターのほか、車両メンテナンスの中心である総合車両センターにも委託化の波が押し寄せています。

首都圏のメンテナンス基地である東京総合車両センターでは、インソーシング（内部委託）とアウトソーシング（外部委託）という言葉を使い分けて、各職場で競い合うように委託化が進められています。



職場の委託に伴い、長年メンテナンスのプロとして仕事を続けてきた社員は、自分の仕事をわずか一、二ヶ月の見習いで下請け会社の社員に教え、教育が終われば別の職場に配転されます。

長年培った技術が、わずかな教育・訓練期間で継承されるのでしょうか。会社は必要な教育・訓練は実施するといいますが、それは現場まかせです。

メンテナンスの外注化で責任の所在は何処に？

東京総合車両センターなどの車両メンテナンス基地では、ISO（国際標準化機構）の取得が盛んに行われています。例えばISO9000は「品質保証を含んだ、顧客満足の向上を目指すための規格」と云われていますが、誰に対する「品質保証」なのでしょう。

品質保証と顧客満足をグループ会社に委託することは、J R東日本が行動指針に掲げている「お客さま第一」「安全・品質の保証」に逆行することになりかねません。また、自前でやっていた点検・修理をグループ会社に委託することによって故障や事故が起きた場合、責任は委託されたグループ会社であり、被害者はJ R東日本になるわけです。結局、業務委託したことによって、J R東日本自らが「品質保証」を低下させる結果となるのです。

今回会社が提案した、車両のメンテナンス職場の合理化施策は、車両の品質保証を委託して、その責任さえも委託会社に押しつけるものです。

私たちは、J R会社が責任を持って車両の品質保証と顧客満足を提供できるように、仕事と職場を守ります。

国労東日本本部